

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520591

研究課題名（和文） 近代移行期都市社会における社会的結合の変容

研究課題名（英文） The sociability in the traditional cities and its transfiguration in the 19th century

研究代表者

横山 百合子 (YOKOYAMA YURIKO)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：20458657

研究成果の概要（和文）：

近世の町共同体や商人の仲間組織は、近世都市に生まれた特徴的な社会的結合組織である。本研究では、明治維新によってそれらの社会的結合のあり方がどのように変化したのかを探り、近世において、町共同体と仲間組織は互いに依存しあう関係にあり、明治維新以後においてもその関係は継続したが、明治 10 年代以降の組織の再編によって、依存しあう関係も失われていったことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The town community and the merchant's association were the social uniting organizations that came into existence in the pre-modern city. In this research, I investigated how the sociability of those social uniting organizations changed in the 19th century. The town community and the merchant's association had the complementary relations and the relations were tenaciously kept after the Meiji Restoration. However they were reorganized and the relations became extinct after the 1877's.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：日本史学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：江戸 東京 仲間 社会的結合 身分制解体 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

(1)近世社会史研究の到達点・・・近世身分論研究は、身分集団の形成とその変容過程を解明し、新しい近世身分制社会像を提示し、そのもとでの都市社会史研究において、諸集団における社会的結合の実態が詳細に解明されるようになってきた。

(2)近代史研究における視角の狭さ・・・一方、近代史研究においても仲間・同業者組合研究は古くからの蓄積をもつが、そこでは、産業

史・経営史研究の視角から仲間から同業組合への移行過程に着目して近代的要素を抽出するという方法が主流であり、仲間をはじめとする諸社会的結合の変容を地域社会のなかで内在的にとらえ、その展開を明らかにするという社会史的視角は不十分であった。

(3)研究代表者(横山)は、明治初年の身分制解体過程の政策史的検討(横山著『明治維新と近世身分制の解体』山川出版社、2005)、および明治 0 年代～10 年代における食肉産業

の展開過程を明らかにしてきたが(横山「屠場をめぐる人びと」塚田孝編『身分的周縁と近世社会 4 都市の周縁に生きる』吉川弘文館、2006)、この二つの作業を直接的前提として、上記(1)(2)の研究史上の問題点を指摘するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、近世身分論研究の到達点にたつて、近代移行期の社会にみられる近代的諸要素の抽出という方法ではなく、近代移行期都市社会における諸集団の結合の実態とその変容過程を、その内在的論理に即して明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 社会的結合＝仲間の実態とその変容過程を明らかにするために、幕末～明治前期東京における商人の家文書、地域行政史料、国家政策を示す史料というレベルの異なる史料を同時に用い、これまでの分野史の枠組にとらわれず、立体的・構造的分析をおこなう。
- (2) 社会的結合＝仲間の実態と変容を、分野史的に取り上げるのではなく、地域社会との関わりを重視しつつ分析する。
- (3) 近世身分論において論じられてこなかったジェンダー視点をふまえて、仲間結合の性格を論じる。

4. 研究成果

(1) 各年度でおこなった作業

第1年度、第2年度において、本研究の基礎作業である大阪市立大学所蔵奥三郎兵衛家文書の調査・複製制作製を中心に作業をすすめ、目録調査と必要な複写をほぼ終了した。特に、大阪と東京の間で交わされた豊富な書簡類の存在が確認でき、遠隔地にまたがる豪農問屋商人のあり方を明らかにする素材としての同史料の重要性が明らかになった。最終年度である第3年度では、仲間結合にたいする行政政策の基調を明らかにする目的から、大小区を通じて地域に布達された行政政策を書き留めた触留・御達簿などの複写作業をすすめ、内容分析を行った。

(2) 成果の公表

本研究は、私文書である奥家文書と東京都公文書館所蔵の公文書を同時に検討することによって、明治初期の典型的な豪農問屋商人のあり方を立体的・複眼的に考察するという特徴をもつが、東京都公文書館所蔵史料については、調査結果の一部を翻刻し、横山百合子「史料紹介 東京府文書「府治類纂地輿」その1～4」(『千葉経済論叢』38,40,41,43)、同「解体する権力」(吉田伸之編『伝統都市2権力とヘゲモニー』東京大学出版会、2010

)で紹介・分析をおこなった。また、江戸―東京における社会的結合の特徴を明らかにする補助的作業として、都市の仲間結合について、女髪結を素材としてジェンダー視点からの考察をおこない、同「19世紀江戸・東京の髪結と女髪結」(吉田伸之他編『別冊都市史研究パリと江戸』山川出版社、2009)に発表した。この作業をとおして、町共同体という基礎的な社会的結合と仲間結合の相補的・共生的関係を明らかにする一方、そのような社会的結合から排除される女性による社会的分業の実態の一端を解明する成果も得られた。また、この成果は、'Coiffeurs et coiffeuses d'Edo et de Tokyo', "Histoire Urbaine" 29, として仏訳されたほか、2011年度歴史学研究会大会全体会(2011年5月開催予定)において、「19世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編―女髪結・遊女の生存と〈解放〉をめぐって」と題して報告する予定である。また本研究が対象の一つとした奥家文書は、その量・質が当初見積もっていたよりも相当程度に大きく、まとまった成果を得るにはさらに解説・分析作業を継続する必要があることが明らかになった。これについては、今後も作業を継続したうえで、最終的成果として予定している単著(現在執筆中)で、2011年度以降に公表する予定である。

(3) 研究によって切り開かれた新しい論点

近世身分論研究は、近世の社会的結合を、村・町というもともと基礎的なレベルの結合と、商人仲間をはじめとする諸社会的結合とにわけ、身分という視角からそれらを統一的に把握する社会構造論として展開されてきた。これにたいして、本研究を通して明らかになったのは、身分論研究において必ずしも積極的に論じられることのなかった、基礎的レベルでの結合と二次的結合の関係性の意義である。二次的結合としての商人仲間の形成や、その基礎にある個々の商人の所有(それは株という物件化現象によっても確認される)は、一見基礎的な共同体と関わりなく形成・成長していくようにみえる。しかし、本研究による検討の結果、それらの商人の所有(営業対象や販売のテリトリーなどの所有)が、基礎的共同体である町と相補的・共生的関係を持つ場合があることを指摘し、身分論研究において展開されてきた、町共同体か諸身分集団かという、両者を対比的にとらえる理解への批判的見地を見いだすことができた。

また、近代移行期の社会的結合の解体と再編過程においても、町共同体と諸身分集団の関係性を意識しつつ分析することが必要であり、該期の都市行政もそのような相補的・共

生的関係をふまえておこなわれていたことを明らかにした。さらに、御用（役）と特権によって排他的所有の保障をはかる近世的な仲間結合の論理を許容する行政は、維新时期以降も継続し、それが明確に否定されてゆくのは明治10年代以降のことだとの見通しを得た。

以上の知見は、本研究で対象とした奥家という豪商における女性のあり方や女髪結など、近世都市社会における女性の存在形態を社会的結合の有りようという視座から検討したことによって導かれたものである。すなわち、ジェンダー視点の導入によって身分と共同体の関係に関わる研究史の新たな展開可能性を発見したという点で有意義な論点提示であり、具体的な実証をもって社会的結合とジェンダーの関係を解明できたことは、本研究の重要な成果だと考える。とはいえ、いまだ端的な発見の段階にとどまることも事実であり、本研究の成果を今後の研究の展開における方法的基礎として位置づけ、都市社会史研究のいっそうの進展を図っていきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

- ① Yuriko YOKOYAMA, Coiffeurs et coiffeuses d'Edo et de Tokyo, *Histoire Urbaine*29, 2010. 査読有、p67-p98
- ② 横山百合子「史料紹介 東京府文書府治累纂 地輿」(その4)『千葉経済論叢』43、2010、査読無、p1-p40
- ③ 横山百合子「賤民廃止令の制定理由とその歴史的位置」藤田先生退職記念『東京大学日本史学研究室紀要 別冊 近世政治史論叢』2009 査読無
- ④ 横山百合子「書評 佐賀朝著『近代大阪の都市社会構造』」『年報都市史研究』16p142-147 2009 査読有
- ⑤ 横山百合子「19世紀江戸・東京の髪結と女髪結」『別冊都市史研究パリと江戸』山川出版社、2009、p85-p102 査読有
- ⑥ 横山百合子「江戸・東京の髪結と女髪結（4）明治維新と女髪結」社団法人日本理美容教育センター『研修紀要』155 p13-16 2009 査読無
- ⑦ 横山百合子「江戸・東京の髪結と女髪結（3）仲間を作らなかつた女髪結」社団法人日本理美容教育センター『研修紀要』154 p34-p37 2009 査読無
- ⑧ 横山百合子「江戸・東京の髪結と女髪結（2）髪結株と仲間」社団法人日本理美容教育センター『研修紀要』153 2009 査読無
- ⑨ 横山百合子「江戸・東京の髪結と女髪結（1）

女髪結の生まれた時代」社団法人日本理美容教育センター『研修紀要』152 p16-p21 2009 査読無

⑩ 横山百合子「史料紹介 東京府文書府治累纂 地輿」(その3)『千葉経済論叢』41、2009 p1-p23 査読無

⑪ 横山百合子「史料紹介 東京府文書府治累纂 地輿」(その2)『千葉経済論叢』40、2009 p1-p48 査読無

⑫ 横山百合子「近世身分論と山口史学」『歴史評論』704、p71-74 2009 査読無

⑬ 横山百合子「史料紹介 東京府文書府治累纂 地輿」(その1)『千葉経済論叢』38、2008 査読無

⑭ 横山百合子「近世身分論の展開」2008年度『歴史教育・社会科教育年報』三省堂 p156-162 2008 査読無

〔学会発表〕（計4件）

① 横山百合子 近世大坂研究会／大阪市立大学文学研究科重点研究／同大 GCOE 都市論ユニット主催 小円座「近世身分社会の解体」におけるコメンテーター（於大阪市立大学）2010

② 横山百合子 2008年度総合女性史研究会30周年記念大会「女性史再考—政治・家族・労働・性・表現・戦争平和」趣旨説明（於立教大学）2009

③ 横山百合子 日本風俗史学会社会史分科会例会報告「19世紀江戸・東京の髪結と女髪結」（於明治大学）2009

④ 横山百合子、第38回明治維新史学会大会報告「近世身分制解体と土地所有一維新期の武土地に着目して—」（於青山学院大学）2008

〔図書〕（計1件）

① 横山百合子「解体される権力」（吉田伸之・伊藤毅編『シリーズ伝統都市』第2巻「権力とヘゲモニー」東京大学出版会、2010）pp179-207

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 百合子 (YOKOYAMA YURIKO)
帝京大学・文学部・教授
研究者番号：20458657

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

大豆生田 稔 (OOMAMEUDA MINORU)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：20175251